

教育環境に関する保護者との懇談会内容（要約）

◆ 日時・場所及び出席人数

☆新野地区	令和2年2月17日（月）新野ふれあい館	18人
☆和合地区	令和2年2月18日（火）和合会館	9人
☆大下条地区	令和2年2月19日（水）町民会館	19人
☆富草地区	令和2年2月20日（木）老人福祉センター	9人

※ 時間各会場：19:00～20:30頃

◆ 出席委員 教育長、教育委員3名

◆ 意見・質問

【新野地区保護者】

- 前回意見交換会の後に周囲の保護者の数人に意見を聞いた。反対意見は一人も無かった。賛成ではないがどちらでもいいという人が数人。賛成意見の人でなかなか意見が出せない理由で、怖くて意見出せないという人もいた。どちらでもいい人の意見で、議論に巻き込まれるのが面倒だとか、変に首を突っ込むと村八分にされるとい意見あり。どうしてもこういうところでは反対意見が大勢となり議論になりにくい。できれば当事者の意見を大事にしようと言ったが、統合がいつになるかわからないが、中学に入って極少人数になる時の親の意見を、丁寧に聞いてほしいです。

少なくなれば合併するのが普通で、超少人数でやっていくのが特殊だと思う。超少人数で行くというのは挑戦であり、カケみtaiである。一人でも嫌だという人がいれば、賛成反対の割合の問題でなく、嫌だという人の意見を尊重し普通の方へ行くのが一般的考えだと思うし、そう希望する。失敗するリスクのある所へ自分の子どもをのせるのは非常に心配だ。だから、最終的に今の小学校低学年や保育園にいる本当の当事者である親の意見を、一人ひとり聞くくらい丁寧に扱ってほしい。

- 小規模より大きい方がいいと1/25にも聞いた。一中に二中が統合しても一中も小規模である。大規模校が良ければ飯田市の方へ吸収される話になるのか。小規模でもやっていける方向を考えるのが阿南町のあり方ではないか。

統合に消極的な意見の理由は、地域振興に絡んだ意見がほとんどだが、地域振興課の人がいないし、話も聞いていないので平行線のままだ。

極小規模へ行くのが不安だという意見も解るが、極小規模へ通いたい意見もある。それぞれの特徴を生かして選べるようにしたらどうか。それが行政サービスではないかと思う。

- 町に中学が二つあるのは、企業が二つあるのと同じ。誘致しても企業はなかなか来ない。統合すると働く場もなくなり職員の数も減る。町で企業を誘致できなければ、職場を減らすことは、自殺行為である。町で人口減少の歯止めをやってきて、中学を減らすことは人口減少に拍車をかけると思う。

- なぜ中学統合をしたいかというと、中学期は外への人間関係を求める。高校や社会人になっても外への人間関係が大事になる。人と人と接する機会がいくらでも多い集団の中で学ばせるのが必要だ。二つ目に学校には共同の学びと言うの

があり、新野は少なく競争がなく伸びが無くなる。三つ目に山間部の生徒は、町場の学校に負けたくない気持ちがあるのはいいが、マイナスに働きやめてしまう例もある。それは人間関係ができていないため、だからある程度の集団の人間関係は大事だと思う。

- うちの娘は令和7年に中学3年になりますが、できれば中学では複式は避けてもらいたい。こういう親も子も知っている中で意見を言うのはたやすくないことで、昨年学校へ教育長さんも来た座談会で、意見を書くようにと預かったものがあると思うが、どのくらいの回答率があってどういう意見があったのか。

回答) 7人の提出があり、3人賛成で4人反対の意見であった。

- 中学校が複式になった場合の教員の人数について説明をいただきたい。

回答) 複式になるとクラスが2つになるので、校長・教頭・担任2人・専科が2人で全部で6人になる。9教科あるので先生が足りない。そうすると町で雇って人数を賄っていくことになる。
複式と言うのは1・2年とか又は2・3年とかで1クラスになるから学校としては、全部で2クラスになる。
専科と言うのは教科の先生なので、養護の先生と事務の先生はいないことになる。必要になれば町で雇うことになる。

- そうなると同じ町の中学生でありながら、1校はちゃんとした1人ずつ先生で、1校は複式の先生の授業となると不平等になる。同じ条件で同じ勉強をしていただきたいと思う。
- 上の子が年長だが、同級生が1人であり、そんな状況のままで中学校へ行って勉強をさせるのが不安。ある程度の人数で競い合うのが大事と思う。今は競争心が無く「仲良しこよし」でいる。大下条と交流保育があると、その後にいろんな考えを持てるようがいい。女の子が近い年齢にいないため、交流で女の子と遊ぶのがうれしいらしい。
- うちの子も女の子で普段遊べない女の子と、交流で大下条へ行ったときには楽しかったと話す。うまくできなかったとき、つまらなさそうなことも言うがそれが大事だと思う。せめて中学校からはそのようにしてほしい。
- うちの子が今小学校2年で、令和6年に中学校へ行く年。保育園までは町外で1年生から新野へ来たが、今は新野に慣れて新野に詳しくなった。2学期の通知表を見ると、手を抜くようになった。体力測定の50m走が時間が伸びていて、理由を聞くとそれでも1番だと言い、競争心がない。競争がいいばかりではないが、手を抜きをするのが出て来た。手を抜くのは良くない。みんなで一緒に取り組む時に手を抜く人がいると、いじめは増えるし、何をしても良くない。
- うちの子は男1人女3人のクラス。参観日を見ても先生が1人でしゃべっているだけで、子どもはぼかんとしているだけ。これは授業なのかと心配がある。宿題を見ても理解できているのか、どうしていいかわからない。男1人で令和6年から複式だと、いまのまま行くと中学3年で不安がある。今児童会も人数が少なく大変だ。もう少し人数が多い中でいろいろ感じてほしい。

- 区域外で新野へ通えて感謝している。人数が少ない親の気持ちはもっともであるが、統合だけでは解決しない。中学が無くなったら地域が無くなるはダメで、地域を維持していくのを考えないとダメで、町ぐるみの話をしてほしい。新野が維持されるのは大事。
- 大下条へ嫁ったがあえて新野を選び3人通わせた。新野の人に育ててもらった感謝の気持ちや安心して育てたい気持ちがあった。クラスの中で女の子1人だけ外へ連れ出して経験させたり、塾へ通わせたりで、全て学校へ任せている訳では無い。学校を統合しても解決する訳ではない。子どもに親が何をしてあげられるか考えて行動することは続くんじゃないか。現状子どもが少なければ、行政として子どもを増やす・人口を増やす努力を、もっと積極的にやるべきだ。山村留学が始まったがもっとバックアップをして、見学に来て住宅に入れないようなやり方では、人口が減っていく。12年前に出ていた話だが、町全体で盛り上げなければできない。行政も頑張る、地域住民も頑張ると今までも意見が出ているが、しっかり参考にしてほしい。
- 基本的なことで、新野に住んでいれば二中に行く様になっているが、新野にいても一中へ行ってもいいんですか。

回答) 阿南町の場合、小学校は新野地区は新野小学校へと条例で決まっていて、中学校は新野地区の方は二中へ行くと決まっている。特別な事情の場合はあるんですが、原則そういうことで、一中については、富草、大下条、和合地区の方は一中へということになります。区域外通学というのがあるので、特別な事情がある場合は、教育委員会で認められた場合は、区域外とか地域外とかがある。新野に住んで一中の選択はない。その逆も原則はない。

- 区域外通学のことで勉強したが、同じ自治体の中なら違う中学の部活を選択できるようになったとか聞くんですがどうか。

回答) 飯田とかやり始めたやつは、社会体育のように受皿を作っておいて行きたい人がそこへ集まるということ。そう言うのが今飯田市で取り組んでいるものです。

- 土曜日にセミナーへ行って、2040年に県の自治体の40%が消滅すると聞いた。そんなに遠くない20年間で消滅すると考えると、中学校が存続するとかそんな次元の話ではない。言っただけいけないが町内の商売はぬるい。飯田の方はすごく厳しい。40%に入れないようにするにはとんでもない努力が必要だ。頭を切り替えるべきだ。

【和合地区保護者】

- 1月25日の意見交換会の会場で出された意見はわかりますか。また昨日の新野の懇談会ではどういう意見が出されたか。

回答) 町のホームページに1月25日の記録を載せてある。昨日は賛否両論

あり、すぐに言いようがなくすみません。昨日の新野の懇談会には、1月25日の懇談会にいた方も結構いて、同じような意見があった。保護者で25日に居なかった方が2・3人が来ていて、極小規模の中学校でこれ以上いるのが不安だという意見など言われた。昨日は18名おられて10人くらいの発言がありました。

- 統合に向けて全体としての考えで、今後の統合準備委員会は、人選は決まっているか、パブリックコメントでこれだけ問題を抱えていて、2年後まとめる期間とすることで、より意見や問題が出ると思う。統合と書いてあるが、一旦見直すという柔軟性のある委員会か、それとも統合するための統合準備委員会なのか。教育委員会は準備委員会をどう考えているか。

回答) 人選ですが白紙です。それから柔軟性については、教育委員会としてはこう考えて、町長の了解も得ました。この方向でいこう、人数の推移から見て限界だろうという考えです。新野の中で話になったが、複式になると先生の数はどう違ってくるかが出て、中学は教科担任制で9教科それに先生が1人ずついる。複式になると校長、教頭と担任が全校2クラスで2人、専科が2人で6人しかいない。しかも事務の先生も、養護の先生も付かない。という状況。

- それは県の基準なのか。(県の基準です。) 長野県に限らず人口減少はどこでもの話で、地域らしさをと打ち出しているのも同じ。県にもっと人を配置してほしいと県に訴えられないのか。保護者を含めてもっと要求できないのか。

回答) それぞれの市町村からある。現状で、県は国の基準よりも緩和しているが、それよりもと言えば町費になり、すでにやっています。

- 町としてどういう教育をしたいか、メリット・デメリットを考えた上で阿南町はどうしたいかの議論が欠けていたと思う。阿南町はこう考えているから統合が必要だとか、この説明会をどう続けて住民の合意形成をどうするのかと思う。アリバイ作り良くないと思う。

回答) 話題が中学の話なのでそのことで言えば、中学期は人との関わりを外に求める時期だ。それには人間関係をつくる術を覚えるには、ある程度の人数がいないと培うことができない。どのくらいの人かというと、中学期では1学年5人以上くらい。保育園から中学校まで12年間同じ人間関係で行く、その後高校へ行くと大人数になる。そこに対応できるかということだ。できれば中学校期にある程度の人数の中で経験しなければいけないと考える。それが教育行政や大人の責務ではないか。教育の内面から統合を考えている。

- すばらしい考えだと思う。その中学へ通っていく子どもの気持ちで、こういう中学にしたいとかを教育からどう広げるとか、そういう夢のある話があればいいと思う。それにはこういう話し合いに中学生や町長さんも出席してできたらと思う。子どもは自分が楽しくないといけなから生徒主体の教育と思う。

回答) それなりの人数になると選択ができる。勉強も部活などもそうで、幅ができるのがメリットの一つと考える。

- 30人いたら自分と合う人とか、思いもつかない考えの人とか出てくると思う。気心も全てわかっている2・3人でずっと15歳まで行くと、こんな考え方もあるとか、生活も自分と会う人・全然会わない人などおり、ずっと一緒だと合わないとわかってはいてもずっと一緒だから喧嘩もできない気もする。ある程度人数があった方がいいと思うし、うちに子は中学へ行って、いろいろな友達ができ楽しくて仕方ない。
という反面そういう子ばかりでない。新野の数名の中だからこそという人もいるというのを初めて知った。それでどうするかはわからない。
- うちの子は山村留学で来て、少ない学級の中で自分を取り戻していったという経過で、今回二中を選んだ。選択肢があることは家族にはありがたかった。阿南町の全体を考えた場合、都会のように分母が大きい中で選択肢があると理想だがなかなかない。分母が少ない中で選択肢があるのは財政面や、教育の質を落とさないために統合が必要というのは筋が通っている。私は両方の立場があり、自分の中でも意見がまとまらない。
- 山村留学で1学年700人規模の学校から小規模に来た。子どもにより大人数がいいこと、そうでない子がいた。上村小の小規模徳認校のような小規模学校がよければ来てくださるような形もある。統合しても50人くらいになってしまうのであれば、選択肢として小規模特認校もあるというのは、山村留学を呼ぶのにアピールポイントになるかと思う。祭り街道という財産があるところに4つの文化がある。阿南町一つにというのわかるが、町外からくると、中国のように〇〇自治区というように合わさっているように見える。それぞれの良さをアピールする手もある。

回答) 二人の意見を聞くとその道もあると思う。町の中で統合する道があるだけまだ幸せだと思う。他の村はもうそれはないからどうしようもない。ゼロになるまで1人や2人で行く訳かどうか。それと、だんだん成長すると、それなりに社会へ出る準備をして行かなきゃならないと思う。そこをどこにするかを、親としても子どもとしても悩む。どうアドバイスしていくのが難しい。少人数でマンツーマンがいいばかりではない。共同の学びは他人との関係により伸びるもの。そこを強調したい。だからある程度の人数はとなる。一中だって小規模校です。

- そうです。既に小規模校で、他にこの学校があれば、統合されてしまう学校です。だから、小規模校としてメリットを生かせるかの良さを考えて行かないと、既に小規模校で、小学校もどの小学校も小規模校になる。統合すれば何とかなるという雰囲気があるが、だから小規模校でやれることはということ。統合が賛成も反対もないが、大きくすればいいという考えでもないし、それをみんなで考えて行かなきゃいけないと思う。大きなところで従わせるのが教育か、従わなければならないというのもある。必ずしも大きくなればということもあるが。自分でも交流を外に求め良かったことも経験してきてそれもわかる。小学校はこのままいくというので安心はしている。統合されちゃう側の気持ちで過疎に拍車がかかるとか、人を増やしたいというのわかる。だからどうしたらいいかはわからない。

回答) ゆくゆくは阿南町も、中学校・小学校が小規模化して厳しくなる。

近々の話であり、その間にいる子どもたちには、精一杯そんな環境をさせてあげたいというのが教育委員会の考え方だ。

- その時に胸をはっていい中学になったと言えるような、そこは何だろうかという話だ。人数じゃないんじゃないかなと思える。
- 統合するという話で、新野の中学が一中の方へ行くのか。それとも新しい箱モノを作るんですか。

回答) それは今後の検討課題だけど、今の時代に箱モノを作るのは難しいと思います。

- 白紙の準備委員会でたった2年間でまとめられるのか。

回答) まとめなきゃいけないと思っている。

- なぜ2年なのか。統合が反対ではないがもっと必要だと思う。統合準備委員会でやる課題・問題点をいかに周知して、最後まで反対の人は反対だけど、こういふことで統合することになったよというのを、情報として積極的に発信していかないと、勝手に決めたということが生まれる。6年を目指すというのも発生することを含んでやっているのか。

回答) できるだけご理解をお願いして、保護者とか地域のところでできるだけご理解いただけよう、意見交換をすることで臨んでいる。

- 納得させるための情報でなく、情報としての情報をいかに発信していくかです。先に富草が中学校が合併して、今富草の人は納得しているのか、それとも今でもあれはちょっとと火種が残ったままの過去の決め方を繰り返すのか。
- 和合も過去に合併をしたが、合併を賛成した人が出て行ってしまった。一中・二中の話が出たが、一中を統合して新野でやったらどうなるかとか、阿南高の存続の話もある。中高一貫校ではという話もあり、他の町村の話を聞くと、そうなるのかなということもある。地域的には、新野人はお祭りを意識しているし、和合も支えているのは子どもたちだ。国道が良くなったが合併しないのはなぜかということもある。合意を得てというのは難しいかも。
- 和合の中学校の統合の話を聞いたことがあるが、やはり賛否両論で収拾がつかず、これから子どもが中学へ行く、一番の当事者である保護者に決めてもらったということでした。
- 先ほどの話の、富草が今もしこりが残ったままかというのはどうなのか。和合の時に、「和合に残すんだ。」として和合に残ったとしてどうなっていたか。その時残っていて今もあるかということ、物理的に存続し得ない時が来たか、残したから子どもが増えていたか、その数が維持されていたかということ、そういうものでもなかったと思うので、たぶん「和合に中学を残しておけば良かったそうすればにぎやかだった。」と思う人は和合でもないと思うがどうか。

- 若干はあるかもしれないが、現在は地域が地盤沈下しているので、それどころではない状況だ。

- ここへ来る前に一番早く消滅するとだろと言われたところから来た。自分がいた地域だけは活気づいていて、牧場の方が何年もかけて保育園を作った。子ども神楽があり、田舎だからできる教育があるということで行ったら子供が増えて行った。町部の人が多いところは高齢者が多くその地域は子供が増えた。予想推移が、下がるばかりと衰退ばかりのことを考えるより、暮らしの良さを大事にしようで考えた方が。和合は子どもが生き生きしている。
- 新野の懇談会の参加人数を聞くと、まだ来られてない方が大勢いると思うが、みんなで話し合っ決めてもらうことだと思う。もっと話しやすい環境を作って、みんなで話し合ってもらいたいと思う。
- この数字はあくまで予想で、ここまで下がらないかと思う。和合みたいに一番低いところまで行ってしまっ、というところは危機感もあって出生率も上がることもあるが、もっと減ったら統合をとっ、それを減らさないようにとっ、増えたらそれで丸く収まるのだから、2年で判断するのは大変だとも思う。新野でも山村留学を始めたようだが、それを全体で盛り上げて子どもが増えて行くには時間がかかる。
- 統合問題を考えるのも必要だが、「いいなあ、阿南の中学校は。」と外に向かって言える雰囲気や地域づくりを一緒に考えないと、とりあえず数だけはこのうちではたいへん。高校もそうだけど面白い学科とか特色づくりや、成績だけで見ないところとか、何か夢のあることをしたい。
- 25日に町民会館で誰かが言ったが、現実的にはわからないが一中・二中を選んで行ける。二中の方は小規模な教育を求める人が行く。一中の方は新野の人でも、多い人数の方がいいという人が行く。考え方としては面白いのかなと思う。上村のような方法で言えば、町内だけでなく上伊那の方からも新野のやり方がいいと来ることも考えられる。現実性は置いといて考え方は面白いと思った。
- 子どもたちの教育環境を願って地方にやってくる人は一定数いる。高校のばあいは出て行っちゃう。阿南町立のようなアパートで寮母さんもいるところがあればいいと思う。そういうのの町でやればいいのかと思う。
- そういうのを天龍かどこかでやっていたが、人が集まらないで経費ばかりかかるのでやめたと聞く。
- 今日は託児を作っただき、夫婦でこの時間を共有することができた。紙とかで情報を入れることはできるが、こういう場の雰囲気と言葉じゃ伝わらない感情とか共有できて、参加してよかった。和合の小学校・中学校の保護者が9割くらい集まった。これをほかのところでいかに丁寧な説明で、情報を共有し、巻き込むかというのが教育委員会で考えた令和6年つながる。
- もっと多くの意見を収集したいと思えば、開催時間とかをもっと考えていただけたらいいと思う。
- パブリックコメントを印刷して回覧してみんなに知ってほしい。

【大下条地区保護者】

- 中学は統合したいという話しで進めているということだが、一中に統合することによって決まっているのか。

回答) そこはまだ決まっていない。それはこれからの検討事項として話し合っているところです。

- 統合の方向で考えて進んでいるというのは、保護者として捉えているが、なかなか決定的に進まないのは、いろいろ課題があると思う。これから中学校に入学する保護者の方の意見を聞く、任意で来てもらった方だけでなく、集まって全体の意見として把握するというのはどうか。

回答) 最初は複式が始まる6年を目途に、保護者の中でも関係する保護者と、そうでない保護者と分けて懇談会をしようと考えたが、分けることに疑問が出て来たので、現在の保護者の方が全てということになった。真に関係する保護者と関係しない保護者とに分けるのも一つの方法である。

- これから進めるにあたっての話で、実際に対象となる人達の意見をとった方がいいと思うので、それが新野の対象となる人達の意見とか聞く場があってもいいんじゃないかと思う。

- PTAなどの会で学校にいる保護者に意見を聞いて、話し合うことを各学校でしたら、きちんとした意見が集約できるんじゃないか。

回答) それはその通りで、1つの学校で実施したが、あまり意見が出なかったもので違う方法を考えた。

- 何もわからない保護者が、資料を渡されて意見を言えと言われても、何を言っているかわからない。教育委員会の方針は統合するという事なので、それに向かった話が聞けるのかと思って来たが、結局は進んでない話なので、それに対し意見と言われても私は意見が無い。

- 統合する場合、おそらく「一中へ統合するだろう。」とみんな推測していると思う。それが、はっきりとしたビジョンで何処へどう統合するのかが、見えないので賛成も反対もできない。逆に「新野へ統合する。」と出た場合、大下条・富草は全く逆の反応が出る。まず「統合をしようか。それから考える。」では、方向が定まらない

回答) 中学期に片方は学年3人くらいになる。推移を見ると令和6年には2クラスになっちゃう。その子どもの置かれる環境は良いのだろうか。中学を卒業をして高校大学と行くのに、保育園から中学終わりまで12年間、同じ人との関わりだけで行く。すると序列が決まっていて、その中で学びとか成長が無いに等しい序列になる。そういう状態下では、高校・大学と行くと折れる時があることがある。そうならないように教育環境を考え、統合を進めてきた訳です。ハードとかソフトについては、後ほど話し合っていくと思います。そんな気持ちで教育委員会は1つの考え方を出しました。

- 確かにその通りで、おそらく出席の方々も大人数の中でやらなければということを考えているが、どこへ通わせるかが重要な要素になるので、早い時点で方向性を示していただかないと、意見がまとまらないような気がする。
- 本当なら教育委員会の考えを出すために、皆さんからの意見を聞けば良かったと思う。今回出したのは大きな考え的な事なので、町長が統合という結論を出した後に、できる統合の準備委員会は、保護者の方の意見を取り入れることもでき、そういう場を設けていくべきだと感じた。
- 統合のメリット・デメリットがどういようになるのかのモデルプランを出さないと、何も言えない。大下条か、新野か、新しく作ると経費が掛かるか、だから統合した方がいいかなので、意見の出しようがない。私の立場では町がこうだよと言えば従う。何を言っても仕方がないので。新野に通えと言え、通わざるを得ないのが本心です。新野は自分でどうするか結論を出せばと書いてあるが、新野単体で中学ができるということはまずないと思う。
- 大下条のお母さんたちには関心がない。きっと統合になると一中の方に統合されると思う親が大多数ではないかと思う。そうなると通うところも変わらず、困ることもなくお母さんたちに関心がないと思う。一中に統合と決まっていなくて、もっとそれを明らかにする必要があるし、それを示した上でどうかと言えば、大下条の親ももう少し考えると思う。
- 主人の仕事で新野から通えないのでここに住み、大下条保育園へ行かせ小学校へ上がる。ほんの少しの地理的問題で、新野小学校・大下条小学校とか、一中・二中の問題があり、子どもを入れる時には難しいなと思っている。小規模で育った子どもは、それなりの良さはあるが、大人数のところ出て行くとやはり折れる。小さい時からいろんな人と接して、その中でいろんな切磋琢磨があると思うが、その良さを途中から入れられるのでなく、小さい時からそういう環境があるのは大切だと思う。だから私は中学校が統合するのは大歓迎です、本当は新野から通いたい。学校をどこへ置くかは新野の人にはこだわりがあるが、小さい町では財政が厳しいので、資金はなるべく使わずに今のものを利用して、その中でＩターンやＵターンなどで子どもが増えれば、その時に増築や新築をすればいい。今は人が多い方へ流れていくのがいいと思う。それで、新しく建てる学校分のお金を、スクールバスなどに充てて、新野・大下条という考えでなく、一つの阿南町として考える。
- 少人数の学校には少人数の良さ、大人数の学校には大人数の学校の良さがあるが、統合することで子どもたちにどんなメリットがあるかを、明確に出してもらえんと考えやすいと思う。一番に阿南町を背負う子どもたちを育てるのが大事だと思う。そういう子を育てるためになぜ統合をしなければいけないのか、そこを明確にしてほしい。
- 今の発言と同じで、中学校の固定化された人間関係の中で、育って行くと社会に出た時に折れてしまうというのは、ホントなのかという気がする。少人数だと自分がやるという主体性を持つ面もあると思う。大勢の中に埋もれて行ってしまいうこともあると思うので、少人数だからこそ主体性を持ってやっていて、そういう子どもが定期的に大人数の中に入って関係をもつなら、少人数を活かしていけ

るんじゃないかと思う。現在の小学生・中学生がどういう課題があって、先生たちがどういうふうにとらえ、らこうしていききたいなど示していただけたら、その上で保護者には何を求めるのか、そうした所も知りたいのでお願いします。

回答) 今の質問に対して教育委員会の考え方では、少人数の中にいると大人数の中に行くと折れてしまう。それは、保育園から中学校へ12年間ずっと同じメンバーで行く、そこからポット外へ出た時に、人は十人十色でいろんな考え方がある。ところが少人数でいるとみんな分かっているの、あの人にこういうことを言ったら仲間外れにされちゃう、というようなものが出来上がり、大勢のところに行った時にはいろんな考えと接することで、多様な考えに触れながら、お互いに認め合い、話しながら、集団生活を送って行ける人を育てていきたい。

- 私がある飯田の学校の先生と話をした時に、少人数の学校とある程度大規模な学校と、子供たちの様子が違うかと聞いた時に、そんなに変わらないと言った。というのは、子どもが学校生活の中で関わる子はある程度限られている、それが5クラスであろうが、1クラスであろうがだいたい友達の関係は決まっているという。他の大勢の場での交流が頻繁にあるかないかの違いだ。他の学校と月に1回交流をしながら、自分たちの考えをぶつけあったりする場を作ればカバーできるんじゃないか。

回答) 今皆さんのお子さんの学校でもかなり、学業の交流とイベント・行事の交流とたくさん取り入れていると思う。そうして今の小学校の少人数でも交流を多くしながら、関わりを作っていただきたいということで授業をやっている。

もう一つ付け加えれば、実際に統計とか何かあるのかと聞かれたが、統計の数値的なものはありません。ただ私は高校の教員の実体験にて、山間部から生徒でマイナス面に出て退学してしまう経験をしている。

- 私も保育園から中学校までずっと新野でした。21人くらいいたが、ほんとに階級のようなものができちゃって、新野の懇談会の中でも出ていた。友達も固定して、下手すると学校へ来られなくなる。新野のお母さんが言っていたが、人数が少ないとある度役割を与えられて、いろいろできるようになるが、子どもが役割が多すぎて疲れちゃう。メリット・デメリットの話になると、富草・大下條の子はそんなにメリットがなく、新野の子の方が一番メリットがあると思う。自分の子もそうだったが、高校へ行き阿南の中学からきたと堂々と言えなかった。自分にも自信がなく、自分の出てきた学校も誇れなかったのが嫌で、それを何とかしたい。たぶん統合するとすれば、自分たちの手で新しい教育を考えれる。それが大下条・富草の皆さんのメリットかなと考えている。

- 資料の表を見ると、令和6年からに中学が複式という話で、その10年後には統合した中学が超小規模校になりかねない。中学を一つの義務教育の形として維持するには、天龍村とか泰阜村とか下條村とか一緒にならないと存続できなくなる。小学校の問題、保育園の問題が学校の次に出てきます。次には自治体そのものの存続が問われる時代が来ます。そういう中で人集めを一生懸命して町おこしをやる。それが現実的に戦力になるのはものすごく確立が低い。何か核がないと難しい。教育でも阿南町の中に分散しているものがあるなら、一つの核にしたい。

今中学が一番差し迫った状態に置かれている。箱モノを作る作らないでなく、一つにまとめて効率を上げると考えるのは自然のこと。集めるときにはやはり器の大きいところに集まってくる。それが考え方のルールや普通の流れだと思う。それがあるからこそものすごい喪失感や被害者意識に近い意識が強くなります。それはパブリックコメントにもかなり出てきます。教育はお金ではないという意見もあります。逆に教育はお金ですという意見もあるし、そういう現実もある。そういうのを考えた時に、集まれる場があれば集めたい、集まってもらいたい。そこでいろんな世界を見てもらいたいと強く思う。

- 子どもには難しいが、子どもの意見を聞くということ考えたのか。子どもと話をするとしょうがないなとかなるのでは。

回答) 当然です。言えることは統合の賛否は子どもさんには無理だから、ある程度方向が決まったら、出かけて行って子どもさんの意見をお聞きしてそれを取り入れていくという考え方です。

- こうして聞くと今日の会議は教育委員会としては統合の方針を出していると自分は認識したが、ここで統合した方がいいとか悪いとか、メリット・デメリットという意見としてはいいと思うが、そういう認識でいいか。統合をする方向で新聞にも出ていたが、教育委員会から方向を示して、こちらからすることは最終的には町長の判断で、後は準備委員会を開いて準備を進めるということで、統合をする方向は決まったという解釈でいいか。

回答) 結構です。それは教育委員会の考え方・方向性で、ある程度町長も理解をしてもらっている。町長が判断するうえで、他に保護者の皆さんの・地域の皆さんの意見があるのかの情報を、町長が決断するうえで必要になるので、出たご意見を町長に報告し、判断していただくことになります。

【富草地区保護者】

- 中学の統合は、教育委員会の考え方の考えでイコール町の考えということでしょうか。

回答) 町ということでは決まっていないが、町長は教育委員会の考え方に賛成していただいている。議会とかの話し合いも必要で、全体の考えではない。総合教育会議の中で検討をして、町長もいいというが全ていいという訳でなく、町長として判断するにはもう少し懇談会とかやって、その内容で判断するという考えです。

- あり方検討委員会の答申は尊重してもらえないのか。何のために諮問したのかわからなくなっている。

回答) 本来は諮問委員ができるということは、そこからの答申は基本的に尊重する前提がされないと、諮問委員会自身の設置がなされないはずだと思う。だから教育委員会で決めた考えにも反対はしていない。しかし、積極的に統合するというまでに至っていないのが現状。

- 富草の方々は、小学校は富草で中学校は大下条へ行くというのを経験しているから、その感想を聞かせてもらえると参考になると思うけどどうなのか。
- 大下条と一緒にあってその不安はあったが、富草という中から違うところへ新しいものを得られ、友達も増えるし、できることもいろいろあるし、昔クラブ活動が面白かった思い出もある。次に高校、次に大学というステップとしてはいいかなと感じる。教育の場なので子どものことを考えてやる方がいいと思う。
- 当時は道がまだ整備されてなくて、部活の時間が合わなくて歩いて通った。当時は大下条と合わさると50人くらいの2クラスあってわくわくした。新しい女の子もいて楽しかった。年1回くらい二中との交流会もあって、素晴らしい人もいたがもっと交流をしておけばよかったと思った。いい思い出がいっぱいあります。
- 友達も増えるし、中学校からいろいろな人に会えるというのはいいと思う。
- 多いところでやると競争心も高まるし、長い人生無れば大事な時期でもあるし当時のことはいい時間を過ごしたと思う。今後高齢化社会で生産人口も減って税収も減ってくるので、その中で医療費にもかかってくるので、中学校が2つあると町としても厳しいこともあるので、早めに統合したほうがいいと個人的には思う。
- 自分たちのころは今より多かったが、自分の時はたまたま少なく、男5人、女7人の12人だった。男が少なかったが、大下条は男が多く喜んだのを覚えている。男5人ではサッカーできなくて、中学で人数が増えてわくわくしたのを覚えている。あり方検討委員会をやったが、あの時出た話と現場の話が同じと感じて、代表で参加して言った意見と同じなので良かった。パブリックコメントを見ると、新野の人は説明会の参加者も多く真剣だと思う。富草の出席が少ないのは関心がないからか、だからこうだと言えば従うけど。新野は反発が出る。それだけ新野はこのことに対して真剣だと思う。
- 新野の人達は統合についてやはり不安なのだろうと思う。保護者の立場でそういうつながりがあれば、こうした参考になる意見を伝えればいいと思う。ずっと同じメンバーだと階級ができてしまう。富草の小学校の中にあるかもしれないが、大下条にもっとすごい子がいたりすると、もっと伸びたりすることがある。富草・大下条の保護者の人が今統合の話を聞くと、何のことかと思われるが、中学生同士でも同じ教育を受けられていないのを、改善したほうがいい。中学は大人への準備期間なのでいろんな体験をしたほうがいい。人数が少な過ぎるとクラスの中では、合わない子が出てくる。2・3人のクラスで合わない子が出ると大変。先生と1対1でやっていて、その関係が崩れると大変。一中だと担任の先生・副担任の先生が1クラスに3人くらいいるが、担任の先生が合わなくても副担任の先生が合うとか、そういう感じだが、少ないとできない。統合は一中にはあまりメリットが望めないが、統合が決まるとするとどういう学校にするかということ、メリットがあるかもしれない。
- 皆さんは実際に中学の時に、新しい集合体を作ることを経験されたので、聞いていてすごいものの見方だと思った。新野の保護者については、慎重な意見をされる方が結構おられたが、それは新野の保護者が、一緒になることにすごく不安な

んだと思う。それで自分たちのところから吸い上げられてしまうような考えをしているかもしれない。たぶん大きな船に乗ることが不安なのかと思う。富草は実際に実感した話なので、経験として機会があればお話しするといいと思う。

- 平谷の話聞いたが、平谷は今小学校は平谷小で中学校は阿智中であるが、中学校を維持しなくていい分のお金を使って、数年前に小学校の新校舎を建てた。少ない人数のための校舎を建てて驚いたが、だけど中学校は大勢の中で体験させたいという判断で、阿智中まで40分かけて通っている。その時のバス代は阿智村の配慮で阿智村が出しているという。どういうふうにお金を使うかが大事だと思う。
- 自分たちのころは富草15人、和合が10人、大下条が70人いて、大勢だから、怖い人たちという印象があった。最初は富草・大下条・和合という単位でまとまりがあり、だんだんと打ち解けていった感じ。やはり富草だけでいるより、知らない人にあったりするのよかったと思う。もし一中と二中が一緒になるのなら、自分たちは全然新野のお祭りとかを知らなくて、子どもたちからもっと知っていれば、もっといろいろに打ち解けていたんじゃないかと思う。保護者の同意が必要じゃないかと思う。今よりまだ人数が多いころ、PTAの集まりで一緒にやったらどうかの話も出たが、今後の推移を見ると少人数では、活動なども大変そうで、子ども達がかawaiiそうな感じがする。気持ちとしては、一緒になればいいとしか言いようがない。
- 中学へ行って初めて顔を見たわけじゃなくて、いろんな交流があって顔を知っていて、駅伝で同じ区間になって、自分が知らなくても友達が知って友達になったりした。今思うと同級生は多いほうがいいので、統合は良かった。
- 今小学校とか保育園とか交流をやっている。先日、富草小と和合小で売木へ行って遊んだ。たまたま新野小は行事があって来られなかったと子どもが話す。そういう意見の作文や交流の映像を大人の人にも見てもらったり、知ってもらえる機会を作って、そういう姿を知ってもらえばいいと思う。
- 教育委員会の考えの5番は、教育委員会の方で参画してやるということか。

答え) 基本的な考えとしては地区ごとにやっている祭りを、地区で人が少なく伝承が難しいのであれば、町全体の学校にオープンにして盛り上げていくというような考えで、必要なら総合的な学習で祭りについて学ぶ。そうすると身近にとらえられるのではないか。

- 新野のお祭りとか知らなくて、大人になって知ったくらい。中学の時に早稲田人形を知ったくらいだ。阿南町という括りの中だから、町内のお祭りを知る機会を学校で作ってもいいと思う。
- 今回保護者の意見を聞いて、3月に地区の意見を聞いて、その後どうするかということですが、どこかで判断しないとならない。

答え) 懇談会の意見はオープンにして報告します。それを総合して、議員さんにもお話して、町長にもお話して判断してもらうという気かにな

るのか。と思います。100%というのは、何やっても行きませんけど、ある程度の合意ができればと思う。

- 複式になった時の教員の数を教えていただきたいです。

答え) 中学は教科担任で、教科は9教科あります。中学が複式になるというのは、2学年合わせて8人以下だと1つのクラスとなります。全校で2つのクラスとなります。先生方の配置は、校長・教頭・担任が2人、専科が2人で、以上の6人になり、事務員・養護教諭もつかない。必要な先生がいれば、町費で来てもらうことになる。そこにお金がかかれば、その分他のところへ回らないということ。

- 今言ったように何をやるにもお金は大事だ。町の財政が限られている中で、どれだけ教育に掛けられるかということ。教育の話はあまり変わっていかないと思う。現実的なお金のシミュレーションも並行しての話は出していくべきだと思う。
- 町村によって教育に掛けるお金がまちまち。飯田市は少ない。阿智村はすごく掛けている。阿南町はそこまで言っていないと思う。阿南町は学校の数も多く不利なところもあるので大変だ。
- こういう話し合いはいいこと。「教育とは何か」というのに返れるチャンスだと思う。